

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 12 月 15日

事業所名 きららSTEM西冠

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			個別対応ブースとは別にフリースペースを設けている
	2	職員の配置数は適切である	○			常時3名の児童指導員を配置している
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	△		トイレは車椅子が入れるように広いスペースを確保している。	現在、車椅子を使用している利用者がいない為、事業所前のスロープは設置しておらず準備を進めている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			業務改善と、別に職員の個別目標も設定し月末には振り返りと改善をおこなっている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	△			今年3月開業の為、まだ実施できていないが保護者向け評価アンケートを予定している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	△			順次、ホームページ等にて公開していく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		行政の指導頂ける機会を活用し助言を頂き業務改善に取り組んでいる。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			定期的に疑似体験を取り入れながら研修を行っている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			アセスメントシートの情報や、活動の様子などを把握し計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			アセスメントシートを利用しています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			振り返りでの情報をもとに、改善や提案をしながら活動を行っている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		オリジナル課題を作り提供している	本人の気持ちも傾聴し、楽しみながら取り組める課題の提供を目標としていく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	△			平日、休日等に応じた課題ではないが、個々に課題を考え設定。季節感を感じれる課題提供も取り入れていけるよう改善していく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		△		個別活動をメインにしている為、集団活動を取り入れにくいのが小人数での活動は視野に入れ行っていく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎日打ち合わせを行い、役割をきめ取組みを行っているが臨機応変に対応しなければならない時の対応力を改善していく。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			終了後ふりかえりを行い、情報を共有を行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			提供記録とは別に業務日誌に記録をとり、情報の共有と改善につなげている
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			6ヶ月に一度の評価会議を行い、日々振り返りの情報も共有しながら見直しを行っている。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			基本活動を複数組み合わせで行っています。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		事業所の責任者が対応をしています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	△	自主通の利用者には到着、出発メールを保護者に連絡している。	送迎がない為、家庭との連絡調整を行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		対象者がおられません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	△			保護者様から情報提供をいただいています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	△			卒業された方がいない為、行えていないが情報提供をする考えはある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			巡回相談を活用し助言をいただいている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		△		待合スペースにて他の兄弟、姉妹等のふれあいはある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	△			参加できるものには積極的に参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	△			お迎え時に状況を伝えているが、自主通の保護者には連絡帳に記載。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		△		話をする機会を設けてはいるが、ペアレント・トレーニング等の支援とまでは言い切れない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時には必ず説明を行っている。また質問があった場合は迅速な対応を心がけている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			相談や悩みを受けた時には対応と支援を行っています。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者体験会を開催するなど、支援内容の共有をおこない保護者同士の連携につなげていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			迅速に対応するようにしています。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ステム通信の配布	質問を頂いた内容などは、全体的にも情報を発信できればと別紙にてお知らせしている
	35	個人情報に十分注意している	○			書類等は鍵付きロッカーにて管理しています。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			見てわかりやすい工夫や声掛け等を行っています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		△		機会がある場合、地域の民生委員の方に案内をしています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	△			防犯についての周知を行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			災害伝言ダイヤルのテスト運用や情報伝達避難訓練を行っている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			チェックシートを活用し意識をしている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		必要があれば組織的な決定に基づき行う
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		食事、おやつの提供はないが保護者へ確認し対応している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット作成し再発防止に努めています。